

第1回滋賀県史編さん会議 議事概要

日 時 令和5年11月14日(火) 午前10時30分～12時20分

場 所 滋賀県庁危機管理センター災害対策室1

出席者 浅見 裕見子 委員、伊藤 之雄 委員(副議長・県史編集委員長)、
大杉 住子 委員(議長)、久保田 重幸 委員、坂根 嘉弘 委員、関川 雅之 委員、
谷口 郁美 委員、寺嶋 裕文 委員、平岡 菜月 委員、藤吉 央 委員、船越 英之 委員、
松本 圭司 委員、三宅 貴江 委員 ※以上、50音順
事務局職員(公文書館職員)5名

配布資料 別添のとおり

会議概要 以下のとおり

1 開会

挨拶(大杉議長)

- ・ 県史を作っていくプロセス自体を大事にしたいと考えており、滋賀県史に思いをはせて、考えていただくようなきっかけづくりを皆さんと一緒に取り組んでいければありがたい。

2 議題

(1) 滋賀県史編さんの経過および編集の進捗状況

- ・ 新しい滋賀県史の編集について(県史編集委員長)

(2) 「県史編さん」にかかる情報発信事業について

上記について、資料に基づき説明(事務局または県史編集委員長)

各委員からの意見

- ・ 今回の県史編さんに当たって、一次資料を追いかけることでどのような歴史が明らかになるのか期待するほか、大人と子どもも含めて「滋賀県はこうなんだ」と胸を張れる土壌となるとともに、歴史を教える先生方のエッセンシャルな価値観として共有することができる県史となることを期待している。
- ・ 県史編さんの目的の中で「未来を考える知的資源として、子どもを含む後世の幅広い世代に県の歴史を伝える」ことが一番重要であり、子どもたちの教育にきちんと活用していくことが県史の務めだと思う。子どもと県史をつなぐものとして、県史や情報紙等のジュニア版があるとよいと思う。
- ・ 情報発信事業では、子どもを意識するとともに、これまで滋賀の歴史に関心のなかった人にも伝わるように心掛けてほしい。展示等の会場として、子供がよく訪れる琵琶湖博物館のほか、図書館、美術館、再オープンする琵琶湖文化館を活用するとともに、県の他の施策との連携等、それぞれの分野と関連付けながら情報発信を考えて欲しい。

- ・ 若い時期に文化や歴史に触れさせることが大事である。学校での出前授業として、地域の祭りで使用する実際の衣装や道具を使って実体験してもらったり、フィールドワークにおいて地域の課題や強みを見つける過程で地域の歴史や背景を実地に体験してもらったりする例があり、このような経験は生徒自身の身に付くと感じている。教員身分の方の参画や地域学校協働本部の活用も一つの方法でないかと思う。
- ・ 情報発信については、メディアミックスをするとよいと思う。色んな媒体を入口に広く知ってもらい興味を持ってもらうという方法もある。例えば、VRを活用することも面白いように思う。SNS等を通じて全国に発信することによって、滋賀の魅力を全国に伝えられるのではないかと思う。
- ・ 地域に眠る多くの資料が散逸・消滅の危機に瀕している。資料の整理の仕方、文書(もんじょ)の読み方、資料を発見した時の相談先、オーラルヒストリーの聞き取りの講座等を開いて、集落や各家の情報を歴史に積み上げる活動や、資料のレスキュー活動に県民自ら取り組むような仕組みを作っていけたらいいと思う。また、県史を読んでもっと知りたいと思った人が、そのように保存された資料にアクセスできるためのネットワーク化やプラットフォームができれば、他県に対する県史づくりや地域づくりのモデルになると感じる。

3 閉会